



JSQC ニュース

No.348

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス デジタルビジネス人材育成 ~IoT時代のイノベーションに向けて~
- 2-私の提言 お客様第一を実践するのに大切なこと
- 2-ルポルターージュ 第385回中部事業所見学会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第384回事業所見学会ルポ / 1・2月の入会者紹介 / 行事案内
- 4-行事案内

デジタルビジネス人材育成 ~IoT時代のイノベーションに向けて~

横浜国立大学 情報基盤センター長 田名部 元成

1. はじめに

2016年3月18日、東京工業大学キャンパスイノベーションセンターにおいて、経営工学関連学会協議会(FMES)の主催で、第31回FMESシンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムは、デジタルビジネスを実現させていく中心的役割を担う人材の育成が進んでいないわが国の状況と課題を認識し、より良い方策を得るためのきっかけとなることを意図して企画されました。

2. デジタルビジネス時代に向けて 産業界の求める人材像

最初の講演者は、重木昭信氏(日本電子計算(株)顧問)です。重木氏は、社会におけるICTの役割の変化を、ICTの使われ方の進化、技術の発展、文明論の視点などから概観した後、この10年間のIT人材育成の取り組みを3つの時代区分に分けて説明していきます。最初は、2005年から約5年間の間の経団連や政府の動きで、この間の取り組みでは、高度ICT人材育成に対するPBL教育の有効性が確認されたものの、育成する人材像の議論が不十分であったことが課題として残ったとのこと。それから2015年までの動きは、IT融合人材育成連絡会などとともに紹介されていきます。ここでは、育成する人材像が、ICT利活用人材育成やIT融合人材へと変化してくる様子が伺えます。2015年以降では、イノベーション人材やデジタルビジネス人材が育成の

対象となってきます。そして、講演は、産業界が必要としている人材は、事業者と一緒にビジネスモデルを創造できる共感力や、高品質よりもスピードを優先してシステムを構築できるスキルを有する人材だとのメッセージで締めくくられました。

3. デジタルビジネス創出・定着のための人材育成の現状と今後

次は、日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)の角田千晴氏です。角田氏は、多くの情報システムユーザー企業において、IT部門の役割がビジネスモデルよりもビジネスプロセスの変革提案にあるという現状と、IT予算が、経営環境に応じて自らを変革する「バリュー・アップ」よりも、事業の根幹を支える「ラン・ザ・ビジネス」システムの維持に費やされているという現状を指摘します。そして、IT部門が事業のデジタル化に対応できなければ、ビジネス部門が独自で外部サービスを活用してデジタル化を推進していくようになるというIT部門不要論について言及し、今後のIT部門に求められるのは、まさにビジネスに直接関わり合う事であると力説します。後半は、そのようなIT部門に求められる人材育成の取り組みとして、JUASの各種セミナーについての紹介が行われました。

4. イノベーション経営に求められる人材・組織

3つ目は、ITコーディネータ協会

(ITCA)の前田信太郎氏による講演です。ITコーディネータとは、経営者の立場に立って経営とITを融合し、真に経営に役立つITサービス利活用の推進・支援を行い、IT経営を実現するプロフェッショナルのことです。前田氏は、環境変化のスピードアップがビジネススタイルの変化をもたらし、改善や改革以上にイノベーションを必要としていることを踏まえ、ITコーディネータをより詳しく定義して、経営の源流に立って環境変化を捉え、変革への認識を持って、ITサービスを利活用する立場で、経営や業務の改革を支援する人材とします。さらに、経営戦略サイクルと呼ばれる企業組織が持続的に成長するための枠組みと、イノベーション経営サイクルと呼ばれる経営サイクルの考え方を導入して、これらの両サイクルを回しながら、IT経営とイノベーション経営を実現できる“イノベティブ人材”が必要であることを主張します。後半は、このような人材の育成に対するITCAの取り組みが紹介されていきます。

5. 最後に

講演の後には、イノベティブ人材育成の評価の難しさやIT人材育成の問題に対する組織論や人間論からのアプローチの必要性など、登壇者とフロアとの活発な議論が展開されました。

今後、同様の機会がありましたら、ぜひ足をお運びください。

● 私の提言 ●

お客様第一を実践するのに大切なこと

(株)ジェイテクト 綿民 誠



新入社員の頃、初めて「お客様第一」と聞いて最初に考えたことは「製造業である我々の商品を買っていただく納入先が一番強い立場にある」ということだろう、でした。品質部門に配属されたので、何を言われても直ちに否定してはいけないのだと浅はかにも思ったのです。

皆さんもご存知の「常にお客様の立場に立ってものを考え、お客様のためになる仕事をする」ということを知った後も、理解して実践するには苦勞しました。特に厳しい叱責を浴びせられ

何度報告しても理解していただけないことが続いた時は、初めて聞いた時に感じたことが正しいのではと思ったものです。

しかしそういう経験を続ける中で、良くなると期待しているからいろいろと細かなことを言われているのだと知りました。同時に納入先のためではなくその先のお客様のことを第一に考えておられることに気づきました。

納入先と取り交わした技術規格を満足していても実際に完成品を使用していただくお客様に満足いただけないのであれば技術規格そのものに不備があると考え納入先と一緒にどう見直せばよいかを考えることが必要です。

また設計者が意図した機能を正しくお客様が理解され使おうと思わないと

優れた機能もお客様にとっては無意味なものとなります。

DVDレコーダやスマートフォンの全ての機能を使いこなせているでしょうか？この考えは、製造業にとどまらず事務・販売・サービスの分野にも当てはまります。最近話題となっている電力自由化や携帯電話の料金体系は複雑で資料を見ただけで、使用者として何がよいのか判断するのに苦勞されていないでしょうか？

中部支部幹事長として支部行事である「研究発表会」、「講演会」、「シンポジウム」、「事業所見学会」の企画を確認する時、お客様に企画の良さを理解していただけるかと自問しアドバイスしています。お客様のためになる仕事をするには、お客様にその内容を正しく伝えることが必要となります。

お客様第一を実践するのに大切なことは、お客様の立場に立ってものを考え、お客様に理解いただける提案をすることにより、お客様にとってその提案が役に立つことを理解していただくことであると確信しています。

第385回中部
事業所見学会
ルポ(株)ヤマハミュージカル
プロダクツ 豊岡工場

去る平成28年2月3日(水)に(株)ヤマハミュージカルプロダクツ(静岡県磐田市)にて、「世界最高峰の楽器づくりを支える技能伝承」をテーマに開催され、33名が参加された。

ヤマハ管弦打楽器の製造会社である同社は、ヤマハ(株)の管弦打楽器、国内唯一の製造会社として2014年4月1日にヤマハから分離独立した新しい会社である。管弦打楽器製造に求められる品質は高級工芸品に求められるものと同等と言われ、その製造技術力を高めてきた。一方で「人」の感性でしか実現できない品質も存在し、これまでの40数年にわたる楽器製造で培い、受け継がれてきた技能を「匠」として維持・伝承していることを紹介いただいた。

当日のプログラムは、浅田社長による会社の生い立ち、理念、製品などの会社概要説明、展示ホールでの各種製品の紹介、管楽器の製造ラインの見学、質疑応

答、意見交換会と進められた。工程の最終検査では、音程だけでなく、音のキレ、安定感など“響き”が出ているかを全数検査していた。この技能は経験が必要になるが、ヤマハ吹奏楽団でその楽器の首席奏者の方が担当されていた。高い感性を持ち、音楽を知る、楽器を知る精神を植え付けているようで、作業者の技能向上のモチベーションにつながっていると感じた。

質疑応答では、人材をどうやって育てていくかという質問が出され、過去の失敗の原因を突き詰めて、地道にソフト対策とハード対策を実践しているとのことであった。技能を、伝承すべきものと機械化するものに分け、伝承すべきものは要素別に必要なものを揃えた。「分かる」から「できる」までやる、生産指標で評価(モードと不良率を個人別評価)することで、論理から実作業と仕組みを整備し、短時間で育成できる技能検定制度を作ったと説明され、技能伝承の仕組みを共有できた。

最後に、業務多忙の折にもかかわらず、丁寧な説明および生産現場見学の機会を設定してご対応いただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。

脇田 康之(日本特殊陶業(株))

第384回 事業所見学会 ルポ

日立オートモティブシステムズ(株)
厚木事業所
品質・環境マネジメント

第384回事業所見学会が2月19日(金)に日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所にて行われた。3社合併による設立は2009年だが、前身の(株)日立製作所が国産自動車の草創期1930年自動車用電装品の国産化事業に進出したのが始まりである。正門に近く鎮座する寒川神社の御分社がその古い歴史を感じさせる。

説明会で「よろずや」とお聞きしたが、その言葉どおり「環境」、「安全」、「情報」の3分野で4つのシステム事業に関わる製品群の多様さに驚かされる。

厚木事業所は2地区で構成され、主に環境分野でCO₂低減に寄与するエンジンの可変動弁システム等エンジンマネジメントシステムの開発・製造を行っている。

マネジメント的には安全文化の構築、省エネ活動、風化しない品質文化の構築、品質保証活動での日立精神・落穂拾い精神の強調、FTA、KT法等各種手法の継

続的な活用、未然防止を図るマネジメントレビューの各ステップを確実に踏むこと及び経営層の関与、地道な活動の実施、失敗に学び風化を防ぐ過去トラ研修、取引先の計画的監査等の説明を伺った。

第一地区の見学では、工場内の行き届いた清掃状況と「安全体感コーナー」、「不適合さらし台」、「4M変化表示板」、「節電大賞」等随所に独自の工夫を感じた。また、当初の予定外に第二地区も見学させて頂いた。「この商品は私たちが責任をもって保証しています」との表示が印象的であった。

伝統ある日立精神の上に、ISO/TS16949、ISO14000マネジメントシステムに忠実に則った基礎的仕組みの確実な実施に感動させられる思いであった。

厚生棟は、大地震発生時等は従業員が10時間過ごすことを想定した設計・備蓄、構内の水を地域住民に提供する災害対策ライフライン給水設備等、社会貢献の精神が感じられた。活発な質疑応答は有意義な見学会を印象付けた。最後に、ご丁寧に対応頂いた日立オートモティブシステムズの皆様に感謝申し上げます。

長谷川 昌史 (品質ISOコンサルタント)

2016年1月の入会者紹介

2016年1月15日の資格審査において、下記の通り正会員6名の入会が承認されました。

(正会員6名) ○岡村 隆広 (セキソー)
○安原 正行 (ナイツック・プレジジョン・アンド・テクノロジーズ) ○鈴木 利則 (ファンケル美健) ○井上 徹夫 (シマノ) ○望月 広愛 (MATコンサルティング) ○小野崎 堯 (Hamee)

2016年2月の入会者紹介

2016年2月12日の理事会において、下記の通り正会員8名、準会員2名の入会が承認されました。

(正会員8名) ○石原 幹也 (アスモ) ○笹崎 正生 (クオリカ) ○和田 吉正 (WADA技術士事務所) ○豊田 美智子 (構造化コーディネイト研究所) ○杉野 幸正 (三菱電機) ○田中 幹大 (ケアコム) ○山田 昌也 (セキソー)

○細川 直次 (アイシン・エイ・ダブリュ)

(準会員2名) ○南野 友香 (鳥取大学)

○神山 紘樹 (早稲田大学)

正会員：2015名

準会員：38名

職域会員：39名

賛助会員：151社196口

公共会員：17口

行事案内

●第110回研究発表会(本部)

日時：2016年5月28日(土)

会場：日科技連東高円寺ビル

プログラム：

・5月28日(土)

10：00～11：00

チュートリアルセッションA

「 그레이ゾーンにおける現場技術者と設計推進者との協調とは」

田中健次氏 (電気通信大学)

11：00～12：00

チュートリアルセッションB

「持続的成功を目指して～キャタラー流経営品質向上の歩み～」

井手 信氏 (キャタラー)

13：00～17：55 研究発表会

18：10～19：45 懇親会

参加費：(懇親会以外の当日払いは別金額)

チュートリアルセッション・研究発表会

会員 6,480円(締切後 7,020円)

非会員12,960円(締切後14,040円)

準会員3,240円・一般学生4,320円

研究発表会のみ

会員4,320円(締切後4,860円)

非会員8,640円(締切後9,720円)

準会員2,160円・一般学生3,240円

懇親会

会員・非会員 4,500円

準会員・一般学生2,500円

申込締切：2016年5月18日(水)

詳細申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280529>

●第107回QCサロン(関西)

テーマ：欧米におけるVR(Virtual Reality)の動向からQCの役割を考える
ーネットとリアル融合ー

ゲスト：志村一隆氏(元 ヤフー)

日 時：2016年6月8日(水)19:00~20:30
 会 場：中央電気倶楽部5階513号室
 参加費：1,000円 (含軽食・当日払い)
 申込先：関西支部事務局
 詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280608

●第98回クオリティトーク (本部)

テーマ：英日統計科学源流談義
 ゲスト：椿 広計氏
 (JSQC会長・統計センター)
 日 時：2016年6月23日(水)18:30~20:50
 会 場：日科技連東高円寺ビル5階研修室
 定 員：30名
 参加費：会員3,500円 非会員4,500円
 準会員・一般学生2,500円
 (含軽食・当日払い)
 申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。
 詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280623

●JSQC規格「プロセス保証の指針」講習会 (本部)

テーマ：品質はプロセスで作る
 日 時：2016年7月1日(金)13:00~17:00
 会 場：日科技連東高円寺ビル2階講堂
 定 員：100名
 プログラム：
 1. JSQC規格「プロセス保証の指針」制定のねらい
 2. プロセス保証の役割と構成要素
 3. プロセス保証の基本・進め方・ツール(1)
 4. プロセス保証の基本・進め方・ツール(2)
 5. 全体討論
 参加費：会 員4,320円(締切後4,860円)
 非会員6,480円(締切後7,020円)
 準会員2,700円一般学生3,780円
 ※当日払いは別金額
 申込締切：2016年6月24日(金)
 詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280701

●第128回講演会 (関西)

テーマ：お客様によるこびと感動を与えるモノづくりとTQM
 日 時：2016年7月4日(月)13:15~16:55
 会 場：大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール
 プログラム：
 講演①：『TQM本格導入による経営体質の強化と現場力の向上』
 田淵 淳氏 (GSユアサ)
 講演②：『島津製作所のモノづくり』
 榎本晋虎氏 (島津製作所)

参加費：会 員4,000円 非会員6,000円
 準会員2,000円一般学生3,000円
 ※当日払い
 申込先：関西支部事務局
 詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280704

●第388回事業所見学会 (中部)

日 時：2016年7月14日(水)13:00~16:30
 見学先：ジェイテクト 花園工場
 定 員：35名 (先着順)
 ※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。
 参加費：会 員3,500円 非会員5,000円
 準会員2,500円 一般学生3,000円
 申込締切：2016年6月17日(金)
 申込先：中部支部事務局
 詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280714

●第158回シンポジウム (中部)

テーマ：「最良だから最強」な組織づくり
 ~社員が共通の理念を持ち、活き活きと活動し、成果を出せる組織にするには~
 日 時：2016年7月26日(火)13:00~17:00
 会 場：刈谷市総合文化センター「アイリス」1階小ホール
 定 員：180名
 プログラム：
 基調講演：望月広愛氏
 (MATコンサルティング)
 事例講演：西 泰宏氏 (西精工)
 参加費：会 員4,320円 非会員5,400円
 準会員2,160円一般学生2,700円
 申込先：中部支部事務局
 詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280726

●第111回研究発表会 (中部) 発表募集

日 時：2016年8月31日(水)
 会 場：名古屋工業大学
 申込締切：
 発表申込締切：5月27日(金)
 予稿原稿締切：7月22日(金)必着
 参加申込締切：8月24日(水)
 申込先：中部支部事務局
 詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280831

●第112回研究発表会 (関西) 発表募集

日 時：2016年9月2日(金)
 会 場：大阪大学中之島センター
 申込締切：
 発表申込締切：7月4日(月)
 予稿原稿締切：8月22日(月)必着

申込先：関西支部事務局
 詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280902

●第160回シンポジウム (本部)

テーマ：開発・設計に必要な統計的品質管理
 日 時：2016年9月10日(土)9:55~17:00
 会 場：日科技連東高円寺ビル2階講堂
 定 員：120名
 プログラム：
 趣旨説明：永田 靖氏
 (産学連携研究会・早稲田大学)
 「開発初期における設計品質のつくり込みー技術的知見の集約と活用を通じた未然防止の実践ー」
 江口 真氏 (トヨタ自動車)
 「スパースモデリングの方法ー高次元回帰分析ー」
 荒木孝治氏 (関西大学)
 「スパースモデリングの方法ー社内教育と適用成果ー」
 吉野 睦氏 (デンソー)
 「工程能力について再考する」
 仁科 健氏 (名古屋工業大学)
 「統計的ものの見方・考え方を定着させるしくみ・体制」
 小杉敬彦氏 (トヨタ自動車)
 パネルディスカッション
 リーダー：永田 靖氏
 参加費：会 員 5,400円 (締切後 5,940円)
 非会員10,800円 (締切後11,880円)
 準会員2,700円一般学生3,780円
 ※当日払いは別金額
 申込締切：2016年9月2日(金)
 詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h280910

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
 本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 TEL 03-5378-1506
 FAX 03-5378-1507
 E-mail：apply@jsqc.org
 中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1
 RT白川ビル7階
 日本規格協会 名古屋支部内
 TEL 052-221-8318
 FAX 052-203-4806
 E-mail：nagoya51@jsa.or.jp
 関西支部：530-0004 大阪市北区堂島2-4-27
 日本科学技術連盟 大阪事務所内
 TEL 06-6341-4627
 FAX 06-6341-4615
 E-mail：kansai@jsqc.org